

宮崎駿・黒澤明

～ 『となりのトトロ』・『夢』 の類似性について～

氏名 廣瀬花衣（経済学部3年）

指導教員：山本武男先生

本論文は、自分自身が1年次に履修した授業の中で感じた、宮崎駿、黒澤明の共通性について、それぞれの監督作品である『となりのトトロ』（1988年）『夢』（1990年）の二つを比べる事で、共通性を明らかにし、かつ黒澤の『夢』は『トトロ』よりも後に公開されたということもあり、黒澤監督が影響を受けているのではないかと、という問いをたて、それに対し幅広い文献をあたり調べ、論じたものである。この二人は世間では全く作風の異なる監督と言われているため、論文として意義深いものになっている事が期待される。

本論ではまずそれぞれの作品そのものの説明背景から読み解き、その作品自体が監督にとってどのような位置づけの作品なのかを明らかにした。かつ、宮崎と黒澤が対談をしたものが本になっているため、その本を読み解きながら直接的な接点、間接的な接点について整理した。

続いては、それぞれの作品比較を行った。まず、どちらの作品も「アニミズム」という思想を多く取り入れており、それを取り入れた理由を二人の自然観にも注目しながら掘り下げていった。また、子供のころの体験を深くえがいている事にも着目し、なぜ子供の体験が基盤でなくてはならなかったのか、について考察した。その裏には両監督のかなり思想的、内面的な部分をも含んでいる内容となった。続いては、製作の過程について比べた。製作過程における「ストーリーボード」という絵の作成は両監督を特徴づける映像表現にもつながっていたことが明らかになった。続いて、映画そのものに大きく絡んでくるストーリーにおいて両映画ともに「死」ととても近い関係にあるという事を明らかにした。かつ、明るいファンタジックなものと死を組み合わせている組み合わせ方も発見することが出来、映画の奥深さを改めて認識する事となった。次も表現の面であるが「風」というものをどのように使っているのかに注目し、監督同士の無意識下でのつながりを発見出来た。また二つの映画を、黒澤明監督の『夢』の

そもそのテーマである「夢」ととらえなおして、「夢」としてみた『夢』と『となりのトトロ』という論を展開した。そして最後にはリアリズムについて「作り込みの深さ」というところから比較した。

結論としては、黒澤監督は少なからず影響を受けているという事を結論付ける事が出来た。